



益子国際工芸交流事業

Mashiko Museum Residency Program

リーチ工房研修プログラム 2020

Leach Pottery Apprenticeship Program 2020

募集要項

Application Details

目次  
Index

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| P.2     | 益子陶芸美術館 館長からのメッセージ                      |
| P.3     | リーチ工房 館長からのメッセージ                        |
| P.4-5   | 益子国際工芸交流事業のあゆみ                          |
| P.6-7   | リーチ工房研修プログラム 2020<br>事業目的、研修概要およびスケジュール |
| P.8-12  | 募集要項                                    |
| P.13-14 | リーチ工房を知る                                |
| P.15    | セントアイヴスでの生活                             |

《応募・問い合わせ先》

益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子 3021

電話 0285-72-7555 FAX 0285-72-7600

E-mail [residence@mashiko-museum.jp](mailto:residence@mashiko-museum.jp)

<http://www.mashiko-museum.jp/>



## 益子陶芸美術館 館長からのメッセージ

Message from the Mashiko Museum Director



益子国際工芸交流事業は、2014年5月に始まりました。益子町と国内外のアーティストの交流促進や、益子の陶芸（工芸）文化の共有を目指し、作家のアーティスト・イン・レジデンス事業や教育普及プログラムを実施しています。

本年までに陶芸家11名と染色家1名が益子国際工芸交流館に滞在し、作品の制作、記念講演会や制作実演といった交流イベントをおこないました。滞在終了後には益子陶芸美術館で展示をおこない、皆さんに成果を披露してまいりました。

そして濱田庄司がバーナード・リーチとともに英国セントアイヴスに渡ってから100年の節目を迎える2020年、益子町では益子の若手陶芸家が世界へ羽ばたくための足がかりとして、「リーチ工房研修プログラム2020」を実施します。

これまで私たちが益子に迎えてきた作家をはじめ、町外からやってくる大勢の方々に、益子の魅力は十二分に感じていただけていると、私は胸を張って申し上げることができます。今度は、彼らを迎えてきた地元の陶芸家がセントアイヴスに渡り、こことは違う空気を胸いっぱいに吸い込み、人々と触れ合い、そうして得たものを益子に持ち帰る番です。

そして益子の陶芸家が帰国したのち、今度はリーチ工房の陶芸家を益子に迎えます。このプログラムは、濱田とリーチの交流を、現代の陶芸家により再現しようとする試みなのです。これから新しい益子焼を作っていく皆さんからの応募を、心から楽しみにしています。

益子陶芸美術館 館長

法 解 人 子

## リーチ工房 館長からのメッセージ

Message from the Leach Pottery Director



これを読んでいるということは、あなたはおそらく2020年にリーチ工房で私たちとともに働こうと、応募を検討しているのでしょう。私たちはあなたをセントアイヴスのリーチ工房に迎えられればと思っています。リーチ工房と益子の間には、100年に及ぶ強い絆があります。これは、私たちが今日もなお育んでいきたい生きた絆なのです。コーンウォール州まで足を運び、リーチ工房で熟練した製造スタッフから学び、働き、見識を広める機会というのは、特別なものです。

私たちはあなたをリーチ工房に温かく迎え、そして新たな友情が生まれることでしょう。それは私たちの仕事に変化をもたらすことのできる人たちとの絆であり、永遠に生き続けるものです。ぜひこの素晴らしい機会を生かしてください。

If you are reading this you are possibly considering applying to come and work with us in 2020. We would like to be able to welcome you to the Leach Pottery, St Ives. The Leach Pottery and Mashiko have a strong connection going back 100 years. This is a living connection that we are keen to still foster today. The opportunity to come to the Leach Pottery and learn from our skilled potters, work in our studio and broaden your knowledge by travelling to Cornwall is something special.

There would be a warm welcome here for you, and new friendships to be made. It is the connections we make with people that have the ability to change our work and lives forever. I strongly encourage you to take this fantastic opportunity.

リーチ工房 館長  
Libby Buckley

Libby Buckley

## 益子国際工芸交流事業のあゆみ

### History of Mashiko Museum Residency Program

#### 2014年

2014.5.9

益子国際工芸交流館 完成記念式

**招聘 Guest**

2014.5.9 – 24

フィリップ・リーチ Philip Leach 滞在  
(陶芸家・イギリス)

**招聘 Guest**

2014.9.18 – 10.29

クリス・キーナン Chris Keenan 滞在  
(陶芸家・イギリス)



#### 2015年

**招聘 Guest**

2015.2.15 – 4.6

リサ・ハモンド Lisa Hammond 滞在  
(陶芸家・イギリス)

**招聘 Guest**

2015.10.23 – 12.9

クライヴ・ボウエン Clive Bowen 滞在  
(陶芸家・イギリス)



#### 2016年

**招聘 Guest**

2016.5.27 – 7.9

ジャック・ドハティ Jack Doherty 滞在  
(陶芸家・イギリス)

**招聘 Guest**

2016.10.27 – 11.25

リンダ・ブラシントン Linda Brassington 滞在  
(染色家・イギリス)



#### 2017年

**公募 Open Call**

2017.3.4 – 5.2

アン・メテ・ヨォーツォイ Anne Mette Hjortshøj 滞在  
(陶芸家・デンマーク)

**公募 Open Call**

2017.3.25 - 5.2

カリーナ・シスカート Carina Ciscato 滞在  
(陶芸家・ブラジル(イギリス在住))

**招聘 Guest**

2017.10.4 - 11.13

ジョン・ベディング John Bedding 滞在  
(陶芸家・イギリス)



#### 2018年

**公募 Open Call**

2018.4.11 – 5.26

マシュー・ブレイクレー Matthew Blakely 滞在  
(陶芸家・イギリス)

**公募 Open Call**

2018.6.6 - 7.30

カーソン・カルプ Carson Culp 滞在  
(陶芸家・アメリカ)

**招聘 Guest**

2018.9.18 - 11.2

ペニー・シンプソン Penny Simpson 滞在  
(陶芸家・イギリス)



※各作家の滞在の様子は、当館ホームページよりダウンロード可能な“成果展パンフレット”にてご確認ください。

<http://www.mashiko-museum.jp/residence/archive.html>

リーチ工房研修プログラム 2020  
事業目的、研修概要およびスケジュール

Leach Pottery Apprenticeship Program 2020  
- Purpose, Outline, and Schedule

事業目的／Purpose

益子陶芸美術館では、益子町民およびその周辺の地域において活動している作家との交流を深め、芸術文化の発展と底上げを目的として、2014年5月より「益子国際工芸交流事業」を開始、国内外で活動する工芸作家に益子で滞在制作を行ってもらっています（アーティスト・イン・レジデンス）。

濱田庄司がバーナード・リーチとともにセントアイヴスに渡って100年を迎える2020年、益子とリーチ工房との絆をさらに深めていくために、若手陶芸家をリーチ工房に派遣します。当館がおこなっているアーティスト・イン・レジデンスとは異なり、3ヶ月弱の間リーチ工房に滞在し、スタンダードウェア製造工房でスタッフとともに働き、作業時間外には工房を使って自身の作品をつくることができますというものです。

リーチ工房の製造現場を体験することで、視野を広げたり新たな人との繋がりをつくる機会を提供し、世界に通用する陶芸家を育成します。

研修概要／Outline

約3ヶ月間、イギリス・セントアイヴスのリーチ工房に滞在し、他のスタッフとともにスタンダードウェア製造工房で作業するほか、リーチ工房で講演会をおこなっていただきます。

作業時間外に工房を利用して、自身の作品を制作できます。

滞在中に現地の様子をSNSで発信したり、帰国後に講演会をおこなうことで、リーチ工房での経験を益子町民に還元してください。



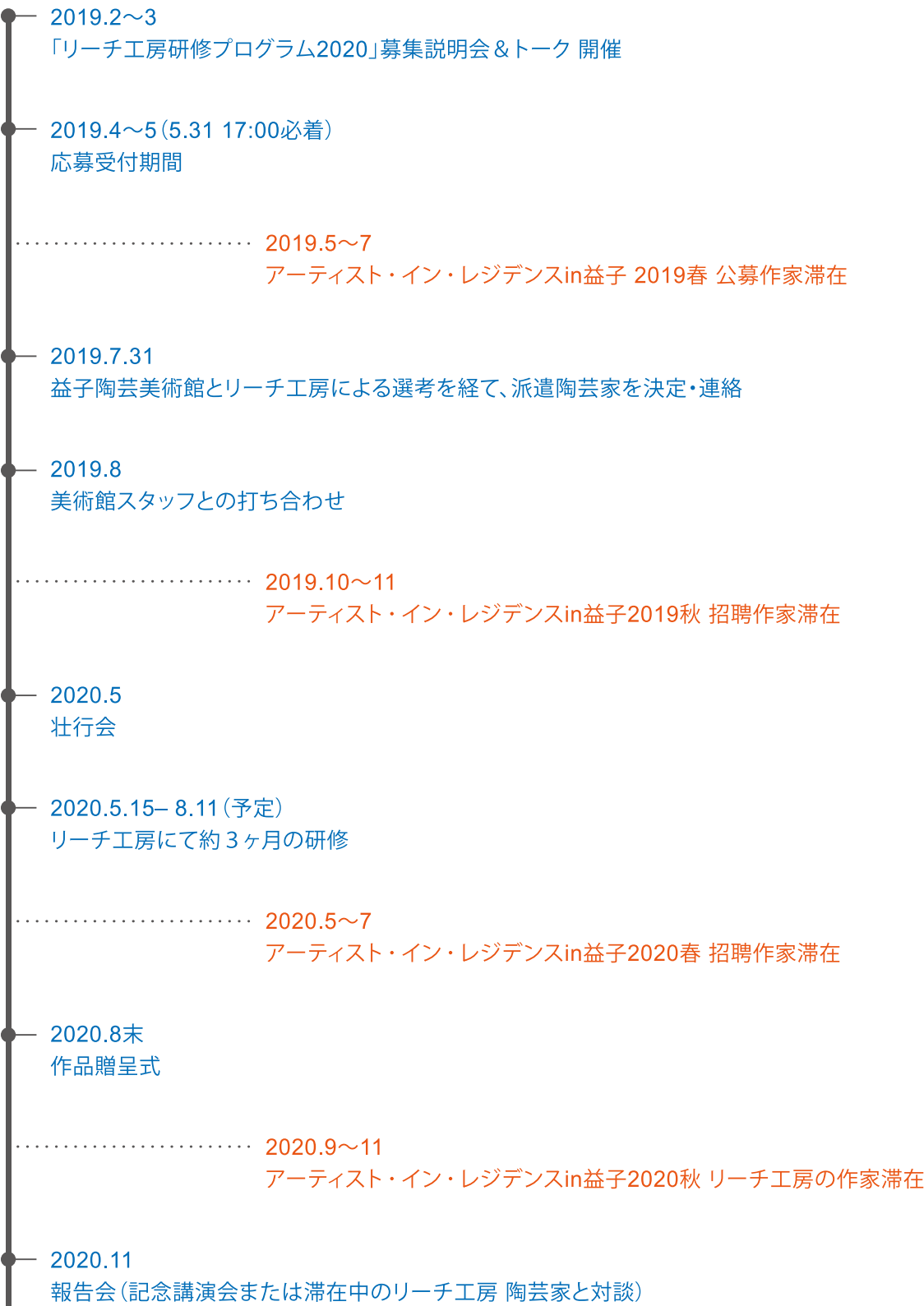
リーチ工房の外観



益子町中学生派遣時の楽焼体験(2018)  
© Sarah White

スケジュール／Schedule

■ リーチ工房研修プログラム2020スケジュール  
■ 益子国際工芸交流事業スケジュール



未来へ、つづく…



募集要項 Application Details

1. 研修先／Workplace

リーチ工房 (イギリス・セントアイヴス)  
The Leach Pottery  
住所: Higher Stennack, St Ives, Cornwall TR26 2HE U.K.  
電話: +44 (0) 1736 799703

2. 研修期間／Duration of Apprenticeship

2020年5月15日 (金)～8月11日 (火) (予定)

3. 応募資格及び募集人数／Qualifications

- (1) 益子町在住または在勤のプロの若手陶芸家2名  
(1979年4月2日以降生まれの方)
- (2) 最低限日常会話程度の英語が理解できる方
- (3) 滞在中の生活費が確保できる方
- (4) 健康状態が良好である方
- (5) 以下の条件に同意できる方
  - 1. リーチ工房で講演会をおこなうこと
  - 2. 滞在中の作業風景、生活風景を記録し (写真、動画、文章など)、定期的に自身のSNSで発信すること
  - 3. スーツケースに入るサイズの作品1点を持ち帰り、益子国際工芸交流館に寄贈すること (その他の作品は本人の自由。展示や販売については本人の希望に委ねます)
  - 4. 帰国後、益子国際工芸交流館で記念講演会をおこなうこと

4. 支援内容／Content of Support

- 〈益子陶芸美術館より〉
- ・渡航費 (成田～ロンドン間の往復航空券)
- 〈リーチ工房より〉
- ・宿泊施設 (敷地内の「ビーグル・クロス」)
  - ・食費 (240ポンド／月)
  - ・作業時間外の工房利用、作品制作に必要な材料費と焼成費

5. 応募方法／How to Apply

応募用紙に必要事項を記入の上、作品のイメージ (過去3年以内に制作した作品写真10点。デジタルデータ、紙焼の写真いずれも可) を添えて提出してください。提出方法は、郵送・持参・メールのいずれも可。応募資料は返却いたしません。

応募締切 2019年5月31日 17:00 (必着)

※募集要項別紙もしくはPDF形式の応募用紙 (希望者のみ) 以外による応募は受け付けません。応募用紙はタイプまたは明瞭な文字で記入してください。記入事項に不備のある書類は審査の対象となりません。選考結果はEメールで連絡しますので、応募用紙に連絡のつくメールアドレスを必ず記入してください。

6. 選考方法／Screening Method

当館とリーチ工房で選考し、全員に連絡します。  
(2019年7月末予定)

※基本的に応募用紙は日本語で記入いただき、当館で英訳したものをリーチ工房に送付します。自身の英語で記入したい方には英語版応募用紙をお渡ししますので、当館までお申し出ください。

※選考についての問い合わせは受け付けておりません。ただし、リーチ工房における選考基準は以下のとおりです。

- 1. 基礎英語  
(2人のうち少なくとも1人はスムーズに英語で会話できること)
- 2. 同じ形状を繰り返しロクロで作ることができる  
(筒形を均一に作るなど)
- 3. 基本的な作陶スキル。窯詰めや釉薬の調合ができる
- 4. なぜリーチ工房に来たいのか、  
説得力のある理由を示すことができる
- 5. チームで働くことができる
- 6. 指示に従って、一人で作業ができる

7. 注意事項／Precautions

- パスポートを確実に取得してください。
- 飛行機のチケットは美術館が手配します。(エコノミークラス)
  - ※益子陶芸美術館～成田空港間は益子陶芸美術館スタッフが送迎します。
  - ※ロンドンのヒースロー空港～セントアイヴス駅間の移動は、各自でおこなってください。
  - ※セントアイヴス駅～リーチ工房間はリーチ工房スタッフが送迎します。セントアイヴス駅到着までの旅程を、事前にお知らせください。
- 滞在期間中の傷害保険への加入を義務とします。各自で傷害保険に加入し、それがわかる書類のコピーをプログラム開始の1ヶ月前までに提出してください。
- 主催者の都合により、事業が中止となる場合がありますのでご了承ください。

8. リーチ工房での作業と設備  
Work and Facilities at the Leach Pottery

- スタンダードウェア製造工房での作業時間は基本的に平日(月～金)の9～17時で、30分間の昼食休憩を含みます。
  - スタンダードウェア製造工房は夏期休暇無しで稼働していますが、益子陶芸家は5日間の休暇を取ることができます。イギリス国内を見て回る良い機会です。
  - 作業時間外(平日夜や週末)に、スタンダードウェア製造工房を利用して自身の作品を作ることができます。主に、製造工房のシンポ製電動ロクロを使用することになります。リーチの蹴ロクロも使用できますが、ミュージアム内の昔の工房にあるため、開館時間内(月～土:10～17時、日:11～16時)に限られます。
  - 工房には以下のものが備えられています。
    - ロクロ・水道・電気・椅子・机・倉庫
- 以下のものも使用できます。事前に相談してください。
- 土練機・押出機・たたら板ローラー・粘土と釉薬・釉薬調合器具



リーチ工房のスタンダードウェア  
© Sarah White

- 使用できる窯は以下のとおりです。
  - 電気窯×2 (21kW/0.4㎡、18kW/0.3㎡)
  - 電気窯(クロア学習工房内)×1 (9.2kW/0.1㎡)
  - ガス窯×3 (0.35㎡、0.5㎡、1.2㎡)
  - ソーダ窯(薪窯)×1 (0.35㎡)
  - 楽窯×1 (0.1㎡)
- リーチ工房では素焼きと、ガス窯での還元焼成を毎週おこなっており、作業時間外に作った作品をスタンダードウェアと一緒にに入れて焼くことができます。ソーダ窯(薪窯)と楽窯は定期的に使用していないため、特別な手配が必要です。
- 粘土と釉薬は、スタンダードウェアの製造工房に備えてあるものが使用できます。粘土は磁器土も使用できます。釉薬はスタンダードウェアの製造と個人作品の制作で共用できるよう、調合済みのものが揃っています。他の釉薬を試してみたいければ、材料を確保してもらえます。新しい釉薬のレシピや実験は歓迎します。工房で調合した釉薬はみんなのもの。誰でもレシピを知ることができるようにしてあります。

|     |                                                                                                    |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 粘 土 | ・ スタンダードウェア用陶土(コーンウォール州セントアグネスのダブルズ採土場で採取)<br>・ スタンダードウェア用磁器土                                      |
| 釉 薬 | ・ 陶器のスタンダードウェア用釉薬<br>ドロミテ釉(白)、天目釉(黒)、灰釉(緑)<br>・ 磁器のスタンダードウェア用釉薬<br>影青(青白)釉<br>・ その他、提供されたレシピに基づく釉薬 |

※以下のサイトもご確認ください。  
<https://www.leachpottery.com/glazing-information>



ガス窯3基

- 滞在先はリーチ工房敷地内の建物「ビーグル・クロス」です。クロア学習工房と、2階にレジデンスアーティスト・研修生・ボランティアスタッフ用のベッドルームが4室あります。浴室（浴槽・シャワーが1つ）、トイレ、キッチンが共用です。
- Wi-Fiはリーチ工房でも「ビーグル・クロス」でも利用できます。滞在中に利用できるコンピューターも1台あります。
- 「ビーグル・クロス」にある700冊以上の書籍を備えた図書室が利用できます。

#### 9. 作業時間外に制作した作品の取り扱い Artwork made at the Leach Pottery

- リーチ工房で制作した個人作品を1点、益子国際工芸交流館に寄贈していただきます。他の作品の取り扱いは研修生本人の判断におまかせします。リーチ工房のスタッフとご相談ください。リーチ工房のショップやオンラインで取り扱ってもらえる可能性もあります。
- 作品が基準を満たし、作陶主任が認めれば、自身のマークまたはサインに加え、制作場所がセントアイヴスのリーチ工房であることを示す「リーチ工房のスタンプ」をつけることができます。
- リーチ工房への作品の寄贈は、本プログラムの必須条件ではありません。

※リーチ工房はオリジナル作品の寄贈を歓迎します。

※リーチ工房には教育部門があり、参加者や来館者が手に取って間近に見ることのできるよう、小さな焼き物（カップなど）を備えています。研修後に何か小さな作品を残してくれることも歓迎します。



「ビーグル・クロス」



リーチ工房のスタンプ  
© Sarah White



リーチ工房のロゴ

## リーチ工房を知る About the Leach Pottery

### バーナード・リーチ Bernard Leach (1887-1979)

リーチは父が植民地の判事を務めていた香港で誕生、宣教師である母方の祖父母のもと日本で育ち、青年期にロンドン美術学校でエッチングを学びました。再び訪れた日本で陶芸に魅了され、六世尾形乾山のもとで学ぶほどになりました。

1920年、リーチは濱田庄司とともにイギリスに帰国しリーチ工房を設立、スタジオ・ポタリー運動の中心地となっていきます。

1920年代後半にはセントアイヴス芸術家協会の設立に携わり、1949年にはバーバラ・ヘップワースやベン・ニコルソンといった著名な芸術家とともにペンウィズ芸術協会を設立しました。

リーチは世界を旅して回り、自身の知識と情熱を陶芸家たちと分かち合い、1979年に92歳でこの世を去りました。

Bernard Leach was born and raised in the Far East where his father was a colonial judge in Hong Kong and his maternal grandparents were missionaries in Japan. As a young man he studied etching at the London School of Art before settling in Japan where he became fascinated with pottery, eventually studying under Kenzan VI.

In 1920 he returned to England and established the Leach Pottery with Shoji Hamada, which became a major focal point for the studio pottery movement.

In the late 1920s he helped start the St Ives Society of Artists and, in 1949, was a founder member of the Penwith Society of Arts together with Barbara Hepworth, Ben Nicholson, and several prominent artists.

Bernard travelled extensively, sharing his knowledge and passion with potters around the world. He died in 1979 at the age of 92.

### 昔の工房 Old Workshop

この工房は、20世紀の最も影響力ある陶芸家幾人かにとつての我が家でした。リーチの著作や評判に影響を受けた弟子や学生、陶芸家たちが工房へやってきました。

暖炉がリーチ工房の心臓部であり、リーチはここで個人作品の批評を行ったり、中世のうつわの取っ手などの例を用いて教え、自身の考えや思想を語りました。

This workshop was home to some of the most influential potters of the twentieth century. Apprentices, students and visiting potters, influenced by Bernard Leach's writings and reputation, came to work at the Pottery.

The fireplace was the heart of the Pottery and it was from here that Bernard Leach undertook critiques on individual pots and, using such examples as medieval pot handles, taught and discussed his ideas and personal philosophy.

### 窯 Kiln

1920年、濱田庄司とバーナード・リーチにより最初の窯が築かれ、3年後に到着した日本人技師・化学者であり陶工の松林靄之助（通称「マツ」）の手によって、よりプロフェッショナル仕様の窯に生まれ変わりました。専門的には半連続倒炎式窯と呼ばれる、3室をそなえた薪窯です。この西洋初の登り窯は現在、指定遺跡になっています。1930年代後半には美学上の理由により、灯油と薪で焼成する窯に改造されました。

In 1920 Shoji Hamada and Bernard Leach built the first kiln on the site. Three years later the Japanese engineer, chemist and potter, Tsurunoske Matsubayashi (known as Matsu) arrived to replace this with a more professionally designed and built, wood-fired three-chamber kiln, technically known as a semi-continuous down draught kiln. This 'climbing kiln' was the first in the West and is now a Scheduled Monument. In the late 1930s it was modified to fire mostly with oil and some wood for aesthetics.



昔の工房（現在の様子）  
© Matthew Tyas



暖炉の前に座るバーナード・リーチ  
Image kindly provided by the Crafts Study Centre,  
University for the Creative Arts.



登り窯（現在の様子）  
© Matthew Tyas



## 現在の工房 Studio

今日のリーチ工房は現代的なものとなっており、リーチ・ウェアは今でも陶芸家がつひとつつクロコでひき、ガス窯で還元焼成しています。

作陶主任率いる工房で、陶芸家たちは生計を立てながら腕を磨いています。チームは、鍛えられた製造スタッフに加え、研修生や時にはボランティアによって構成されています。リーチ工房の遺産により、今日もチームは国際的であり続けています。焼き物を効率よく製造できるよう、スタッフたちは協力しながら作業を行なっています。

Today's Leach Studio is a contemporary workshop making our lines of Leach Ware which is still individually thrown on the potter's wheel and fired in our gas reduction kilns.

Headed by our Lead Potter, the Studio provides a living and training for potters. The Team comprises trained Production Potters and a mixture of Apprentices and sometimes Volunteers. Such is the heritage of the Leach Pottery that today's Team continues to be international. They work in cooperation, making them more effective in the range of pots they produce.

※どんな人たちが働いているのか、下記サイトで確認できます。

<https://www.leachpottery.com/the-leach-studio/>



スタンダードウェア製造の様子  
© Shannon Bartlett-Smith

## セントアイヴスでの生活 Life in St Ives

町／Town: セントアイヴスはイギリス南西部、コーンウォール州にある海辺の町で、人口は11,000人余り。ビーチがあり、夏場は観光客でにぎわいます。ギャラリーもたくさんあります。

アクセス／Access: ロンドン・パディントン駅からセントアイヴス駅までは鉄道でおよそ5時間半。セントアイヴスからは周辺地域へのバスや鉄道も。

移動／Transport: セントアイヴスは坂道が多いので、移動は徒歩が便利です。リーチ工房から市街地までは歩いて15分ほどですが、目の前からバスも出ています。

車／Car: リーチ工房での研修中に車を運転する必要はありません。休日に車で出かけたければ、レンタルできるお店が周辺に2軒あります。(国際運転免許証が必要です)

食事／Food: リーチ工房から徒歩5分のところに、サンドイッチや基本的な食料が買えるお店があります。調理済みの昼食なら5ポンド程度。30〜40ポンドあれば、1週間分の食料が手に入ります。市街地にはパブやレストランなど食べる場所はたくさんあります。夕食は場所にもよりますが、10〜20ポンド程度。近所に手頃な価格のフィッシュ・アンド・チップスのお店があります。約5ポンドでかなりの量。濱田庄司も食した郷土料理パースティ (pastty) もぜひ現地で!

電話／Telephone: 手持ちの携帯電話がSIMフリーなら、イギリス国内で使えるSIMカードを購入するという方法があります。現地で安価なプリペイド (Pay-as-you-go) 携帯電話機を購入することもできます。また、Wi-Fiで繋がるインターネットアプリ (Messenger, iMessage, WhatsAppなど) を利用し、携帯電話なしですます人も。



夏にはたくさんの観光客が訪れる  
© Sarah White



パースティ  
© Sarah White

